opusdei.org

黙想:幼子殉教者 (12月28日)

黙想のテーマ:「ご降誕の状況」「聖ヨゼフの信仰と現実 主義」「幼子殉教者と母親の 悲しみ|

ご降誕の状況

聖ヨゼフの信仰と現実主義

幼子殉教者と母親の悲しみ

「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げ

しかしヨゼフは、恐れに圧倒されることなく、落ち着いてマリアを起こします。彼らが寝泊まりしていた場所は、賢人たちの訪問を受けたばかりで、贈りものの香や黄金の輝きで満ちていたことでしょう。しかし今は、ひそかに逃げなければなりません。

この対比は、幼子がお生まれになっ た際に生じた悲劇を、私たちが見落 とさないようにと招きます。「飼い 葉桶を観想することは、この嘆き悲 しむ声を観想することでもありま す。それはまた、身の回り周りで起 きることに耳を傾けることを学び、 隣人の苦しみに対し、繊細で開かれ た心を持つということです (…)。 周囲の出来事から切り離して、飼い 葉桶を観想することは、クリスマス を〈きれいな〉おとぎ話に変えてし まいます。それは私たちをいい気分 にさせますが、人となられた神が私 たちに贈りたい福音の創造的な力を 削いでしまいますしい。

マリアの心には、シメオンの「あなた自身も剣で心を刺しつかれます」 (ルカ2・35) と言う預言が響き始めたことでしょう。キリストの御母 は、落ち着きを保ちながら、急いで 出発の準備をします。人々に別れの 挨拶をする時間はありません。な かってイエスは脅威ならな かってイエスは分からした かったかもしれません。しかしなら は、神の摂理に対し不満を前に神 反抗したりしません。出発前に神に で保護と新たな旅の祝福を祈りま す。

もしかしたらヨゼフは、不確実性による不安に襲われたかもしれません。それはマリアの懐胎の時、出産間際にベトレヘムに向かった時、宿が無かった時に経験したものと同じようなものだったかもしれません。そして今回は真夜中に逃げ出さなければなりません。

聖ホセマリアは聖ヨゼフの対応に感動し言います。「ヨセフの信仰がどれほどかを見ましたか。(…)なんという従順。『子供と母を連れてエ

ジプトに逃げなさい』(マタイ2・3)と天使に告げられた時、直ちに従います。聖霊の業を信じていたからです」図。ヨセフは自己の使命を受け入れました。そして一時の遅れによって害が生じうることを知っていました。神と彼に自身委ね切っているマリアを見、そして暗闇の中出発を決意します。

取り、そして立ち上がるためには勇気が必要です | 図。

ヘロデの命令により、兵十の一団が 「ベツレヘムとその周辺一帯にいた 二歳以下の幼児を一人残らず殺す | (マタイ2・16) ためにエルサレムか ら出て行きます。ダビデの町全体は 罪なき幼児たちのうめき声と母親た ちの嘆きで一杯になりました。「こ うして、預言者エレミアを通して言 われていたことが実現した。ラマで 声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声 だ。ラケルは子供たちのことで泣 き、慰めてもらおうともしない、子 供たちがもういないから」(マタイ 2.17-18)

無防備なものへの恐るべき暴力がどうして起こるのか。この子供たちはイエスのために、命を捧げました 四。死ぬことさえ知らずに死んだ子 供たち。母親たちには幼子たちがな ぜ命を奪われたのか理解できませ ん。マリアは、悲しみに打ちひしが れた母親たちのことを想像し、涙に 暮れたかもしれません。しかしてリ アは理解できなくても、このことに 何か意味があることを信じていまし た。

苦しみを前にして、言葉は声を失い ます。マリアはそれを心におさめ、 生涯その思いを記憶に留めました。 あの幼子たちは、non loquendo sed moriendom 、言葉ではなく「神と小 羊に献げられる初穂」(黙示録14・ として、死によってキリストの 証人となったのです。何年か後、マ リアはベトレヘムのあの婦人たちの 何人かと出会ったかもしれません。 彼女たちを慰めることは容易なこと ではなかったでしょうが、落ち着か せ、心を癒す言葉をかけたことで しょう。あの聖なる幼子たちの命

は、御子の命と繋がっているのです。

[1] フランシスコ、司教への書簡 (幼子殉教者の祝日にあたり)、 2016年12月28日。

[2] 聖ホセマリア『神との語り合い』、説教「われらの父にして主なる聖ヨゼフ」3番。

[3] フランシスコ、司教への書簡 (幼子殉教者の祝日にあたり)、 2016年12月28日。

[4] 聖アウグスティヌス、ご公現の 祝日の説教373参照。

[5] ミサ集会祈願。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-1228/(2025/12/17)